片側顔面けいれんについて

皆様は片側顔面けいれんという病気をご存知でしょうか。

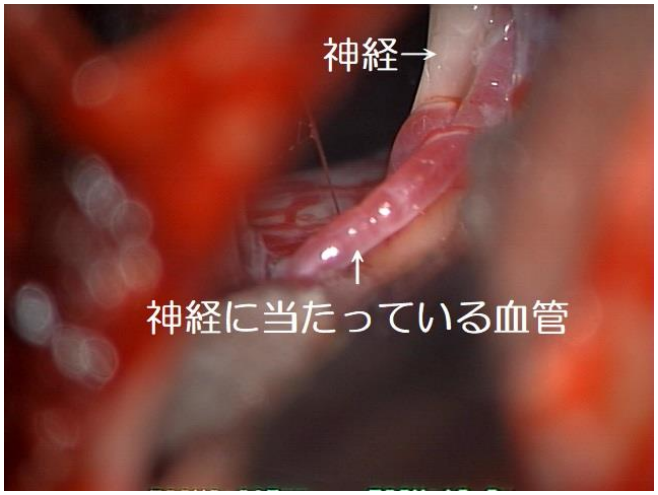
この病気は片側の顔面の眼の周りや口の周りが不規則にぴくぴくと収縮してしまう病気です。通常は目の周りのぴくつきから始まり、次第に口の周りにも広がり、症状が進行すると眼を開けることができなくなったり、口元が持続的にひきつれるようになったりする場合もあります。そして疲労やストレスにより症状が強くなることもあります。睡眠中も存続し、意識的に止めることはできません。また通常は痛みや感覚の異常は伴いません。中年以降の女性に多いと言われています。顔面神経が脳幹から出たところを脳の屈曲蛇行した動脈により圧迫されていることが原因となっていることがほとんどです。

このような患者様が外来を受診した場合、まず他に神経症状がないことを調べ、次いで MRI 検査を行い、症状を生じている側の顔面神経部に腫瘍や脳動脈瘤、血管奇形等がないことを確認します。ときには顔面神経を圧迫している動脈が同定できることもあります。

治療としては薬物内服治療、ボツリヌス毒素によるブロック注射治療、手術による治療等があります。軽症から中等症の患者様にはまず抗けいれん作用のある薬の内服治療を行います。効果が弱い場合や眠気、ふらつき等が出現し内服が困難な場合は、ボツリヌス毒素を顔面の筋肉に注射するブロック治療を行うこともあります。当院では麻酔科の先生にお願いして行ってもらっています。この治療は効果は高いのですが、約 3 か月程で薬の効果が減弱し、繰り返しの注射が必要になります。

症状が強い場合は神経血管減圧術という手術を全身麻酔で行います。これは耳の後ろの後頭骨に開頭を行い、手術用の顕微鏡で観察しながら、顔面神経の出口を圧迫している動脈を見つけ、これを移動し圧迫を解除します。この手術によりほとんどの例で顔面のけいれんが消失あるいは減弱します。しかし同側の顔面麻痺や聴力障害等の手術合併症を生じることもあり、手術するかどうかは術前に患者様とよく相談し、考えていくことになります。

以上、片側顔面けいれんについて述べてまいりましたが、片側の顔面がぴくぴくして、なかなか改善しない場合、脳神経外科受診をお勧めします。



【副院長兼脳神経外科診療部長　曲澤　聡】